

◎多世代交流の仕組みづくり事業

11月20日（金）に三育学院大学の学生と協働で多世代交流の仕組みづくり事業を実施しました。

今回は、「防災」をテーマに防災の基本的な講話と非常用持ち出し用品の確認を8名の高齢者と一緒に実施しました。



▲総務課防災総合対策班職員による平常時の備えの講話

ここ数年、台風や大雨の影響により千葉県内でも多数の地域が自然災害の被害にあっています。その中で、平常時から備えておくことについて、学生と教員、町総務課防災総合対策班職員と協働で、非常用持ち出し用品について、クイズや実際の物品を目で確かめることを実施しました。

参加した高齢者は、「備えてない持ち出し用品があり、勉強になった。」「思ったよりも持ち出し用品が重く、足腰が丈夫じゃないと持ち出せないことが分かった。」など学生と談笑しながら学びました。また、実際に阪神・淡路大震災を経験している高齢者から貴重なお話を伺い、平常時からの備えが重要であることをより実感しました。



▲学生による非常持ち出し用品の講話

今回も新型コロナウイルス感染症の感染対策を取りながら人数を制限して実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、普段より住民同士の交流が難しくなっている中で、高齢者と学生の交流を通していきいきと過ごすことができました。

今後は、新型コロナウイルス感染症の動向を確認しながら、地域の高齢者と子どもたちの多世代交流が実施できるように三育学院大学と協働していきます。



▲非常用持ち出し用品についてグループで話し合う様子